

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 305
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369
E-Mail: naka@church.jp http://church.jp/naka/
発行者 渡辺英俊 (題字 松橋 順)

宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

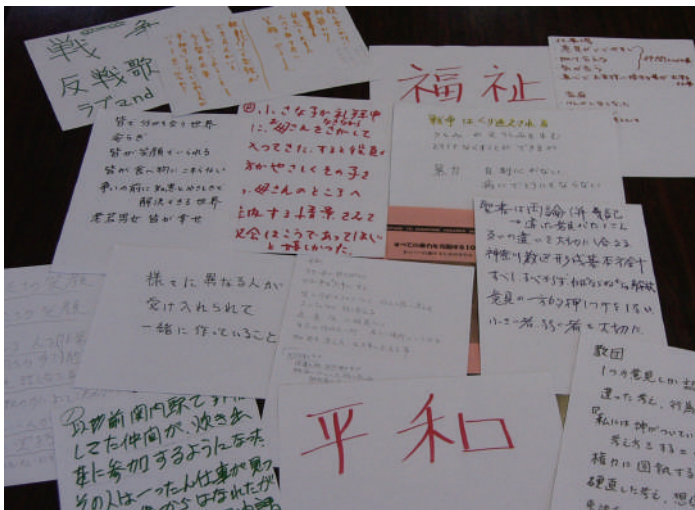
集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

暴力の克服に向けて

寿から教会を考える②

ワークショップ

ファシリテーター：石倉 夕子



思い出す言葉を書き出してみた

思い出す言葉を書き出してみた
地域で……近所の人たちとの良いコミュニケーション
食事をついしょにする、等々。
地域で……近所の人たちとの良いコミュニケーション
係がある、毎日食事をいっしょにする、等々。
地域で……近所の人たちとの良いコミュニケーション
が皆と同じように分かりうれしかった。
・神奈川教区形成基本方針に示された精神が、違いを認め合い、平和を教会に創り出す重要な示唆を与えてくれる。

「九一一」をきっかけに、米
国を中心とする世界は「正義」を口実にした戦争に突入し、二一世紀は戦争と暴力の世紀として始まってしまいました。わたしたちは、根源的な人間らしさを体現したイエスに従う教会として、戦争をはじめとするすべての暴力を克服したいと願います。WCC(世界教会協議会)は二〇〇一年からの一〇年をすべての暴力を克服する「一〇年」として取り組んできました。なか伝道所でも、暴力をどう克服するのかをいっしょに考えるため、暴力について話し合うワークショップの時も

思い出す言葉
はじめに、平和と暴力という二つの言葉から思い起こすこと、連想する出来事などを自由に出し合ってみました。
平和……福祉、堅実さ、優しさ、思いやりの心、笑顔、安らぎ、愛、助け合う心、けんかしないこと、殺しあいや武器がないこと、皆が食べ物に困らない、争いの前に知恵と優しさで解決できる世界、老若男女が皆幸せになること、等々。
暴力……破壊、傷つくこと、一方的、強さの誇示、弱さを認めない、人種差別、格差社会、収奪、権力、力の支配、多数決、戦争、原子力発電、資本(カネ、財閥)、等々。
次に、身近な地域、会社(職場)、学校、そして教会の中で平和的なことと暴力的なことについて、出し合いました。
◇平和的なこと
職場で……会社がCSR(企業の社会的責任)に熱心である、会社で意見が言いやすい。社員同士助け合える関係がある、毎日食事をいっしょにする、等々。
◇暴力的なこと
職場で……会社というものがヒエラルキー社会・学歴社会であること
地域で……孤独死や、他人への無関心などがある一方、「コミュニケーション」が強調されることで、一致や同質化が強調されるなどの問題がある。
興味深いのは、学校についてです。平和については積極的に語れることが見つからず、一方、暴力については、学校での日の丸掲揚、君が代斉唱が強要されるなど、学校のシステムそのもの、教育内容そのものに組み込まれた暴力的文化があることが指摘されました。
教会では？
◇平和的なこと
・礼拝の話で元気がもらえる
・仲間ができる。
・小さな子どもが礼拝中に泣きながらお母さんを探して入ってきたところ、役員の一人在優しくその子をお母さんのところへ案内する情景を見て嬉しくなった。
・一人の耳の聞こえない人のために、書ける人が自主的にノートテークをして、説教が皆と同じように分かりうれしかった。

・聖書は違ったたくさん意見が併記された書物であり、本来的に、互いの違いを大切にしようこと、小さい者、弱い者を大切にすることが、その精神である。

◇暴力的なこと

・一つの意見しか認めず、権力をもつ者が、違った考え・行為を排除し、権力に固執すること。

・考えの硬直化や想像力の欠如。

・多数決の論理を振りかざして、少数意見を顧みない傾向、意見の一方的押しつけ。

・牧師の権威が時として暴力的な性格を帯びるケースもある。

話し合いから

◇プライベートな空間である家庭や、権威のある牧師を頂点とする教会の場合も、暴力的な関わりを可能にする閉じられた空間となりやすい。

◇教会が暴力の起こる場となりうるのは、教会が「神の権威」を委ねられていて、権威の上に立つという思い込みがあるからではないか。本来、開かれた関係性の上に立ち、違いを認め合い喜び合うはずの教会が、頂点の高い完全な二等辺三角形の構造になってしまふところに、暴力の根が生える。教会をオープンにしていく作業が大事だと思ふ。

◇オープンな教会になって行くためには、牧師の養成の場が重要であり、聖書の学びを、字句の解釈や歴史の学びだけでなく現場で人間としての感性をぶつけながら、考

え学ぶことが必要であると思われる。

◇模範的な人間とか、模範的なクリスチャンとか牧師とか……、そういうイメージの中に埋め込まれた、「すべし、すべからず、ねばならない」などの既成概念から解放される方がいい。そうすれば、互いの違いを大切にしたい、相手を切り捨てない、平和的な関係を築く土台形成ができるのではないか。

◇いろいろな活動を担っている人たちにも大学出が多い。学歴が無言の暴力に感じられることもある。

◇ホームレスをしていたとき暴力を受けた。暴力は立場の弱い者に向けられる。

◇北村慈郎牧師への免職処分は、多数決が暴力的に利用される場合の典型ではないか。そこでは問答無用の切り捨てが行われている。

◇違いがあることを多様性の恵みとして受け止め、互いに学び合い、問い合っていくことによって豊かにされる。そこに平和への道が開ける。

◇寿の住民の中には、直接には目に見えない暴力としての差別や疎外の被害を受けてきている人が多くいる。それをいっしょに担い、いっしょに闘っていくことが、暴力を克服する大切な一歩だと思ふ。

記録担当者のコメント

一つの結論にまとめるための話し合いではないので、まとまりはありませんが、それぞれの生活・経験と突き合わせながら

考えることができました。

WCCは、「すべての暴力を克服するための一〇年」の振り返りのために、「ともに世界の真実を語る」というタイトルのテキストを出しています。このテキストでは、戦争と飢餓、環境破壊、ドメスティックバイオレンスや性差別、少数者差別、民族差別などの明らかな暴力だけでなく、経済的、構造的暴力や、私たちの地域コミュニティから、信仰の仲間でもある教会という場が存在する暴力、ふだん意識されていなかったり、隠されている、たとえば権力構造に根差した暴力なども考える対象となっています。

暴力を見据え、対峙し、克服する努力と平和を作る願いは、私たちの信仰と願いの中にありますが、日々の行動の中でいつも考え、生活しているわけではありません。しかし、この日話し合った、身近でふだんは意識しないことの中に、暴力の根もあるし、平和への芽もあります。わたしたち自身の意識化が大切です。何が暴力なのかを認識することが暴力を克服するための第一歩です。家庭、地域共同体、教会などあらゆる場面で、暴力とは何かを明確にする作業をつづける必要があると思ふ。

わたしたちは、暴力ときちんと向き合う中で、「平和を創り出す人は幸いです」という言葉を、暴力を克服するための祝福の言葉として改めてかみしめ、具体的な平和への努力を続けたいと思ふます。

(まとめ・文責 小笠原公子)

救援物資に運ばれて① 郭鐘洙

大震災から二週間が過ぎた三月二五日、東北自動車道が開通したその夜に、わたしたちは東松山市(宮城県)に向かった。目黒の弟夫婦宅でこの日のために用意した一三個の段ボール箱を、黒塗りのワンボックス・カルの後部座席とその後ろの荷台に満載した。義妹は荷物ごと後ろの一人がけの席に座り込んだ。太いマジックで「東松山市立矢本第一中学校救援物資搬送」と二段に書き込んだ布を、ガムテープで両窓に貼り、夜九時過ぎ、現地目指して出発する。

網の目の首都高速をぐり抜け、数時間して福島県に入ると雪になった。雪は次第にぼたん雪となり、間断なく降ってきた。まるで夜の闇の中で白糸の滝をくぐり抜けているようだった。路傍や高速道路沿いの木々はまたたく間に白い衣装を着けた。

風景

途中「あだたら」の休憩所で給油の列に加わった。今日が開通の日だからなのか、東北道走る車は決して多いとは言えなかったが、給油の列はかなりのもので、主に大型の運送トラックだった。列の後方で待っていると、ぼたん雪の中、懐中電灯を持ち黄色いカッパを着た整理員が、車のテープに気づき、「緊急車両」ということで案内され、先に二〇リットルの給油を受けることができた。

ここから先の高速道路では、ガソリンスタンドが開いていなかった。わたしたちは、ここで二〇リットルの給油を終えると、「救援物資」という目的を達し、またここまで自力で戻ってこなければならなかった。

(続)

使信

神のパートナーとして

わたなべえいしゅん
渡辺英俊

あなたの天を、あなたの指の業を

月も、星も、あなたが配置なさったもの。

そのあなたが御心に留めてくださることは

人間は何ものなのでしょう。

人間は何ものなのでしょう。

神に僅かに劣るものとして人を造り

なお、栄光と威光とを冠としていたがせ

御手によって造られたものをすべて治める

ように

その足もとに置かれました。

羊も牛も、野のけものも

空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

(詩編 八篇四—九節)

譲り渡す

人間が神に似せて造られたと、聖書

は言うんですけれど。何が似ているかと

言えば、「人格的主体」であること。つ

まり、自分の意志で自由に選んだり

決めたりする能力を持つということ。

この能力があつてはじめて愛するとい

うことが可能になる……。神は、人間

との間に愛のつながりを持つことを

望まれたんで、人間を自由な者として

お造りになった……。

そこまではいいんですけど。人間を

自由な者として造られたということ

は、神が自分の思い通りにならない者を

造られたということ。ここで神は大切

なものを人間に譲り渡しておられるん

ですね。神は全能で何でもできるから、

人間みたいなちっぽけなものは一ひねり

で思い通りにできる……と考えがちなん

ですけど、そこが違うんですね。相手

のために自分を抑えることができる

えーとねえ

最近「ぼうる、(ボールのこと)」という言葉覚えて

道端で落ちてるボールを見て 「あっ、ボール！」

テレビに出てくるのを見て 「ボール! ボール！」

空のお月さまを指さして 「みて! ボール！」

(いろいろなボールを発見している 幸前友 2才)

いうのも、「何でもできる」に入っていない

なくちゃならないわけで。神は人間を

造るに際して、全能の力をそのように

使われたんですね。

二人の人間の間でも、相手の自由を

保障するためには、自分の勝手にはでき

ないでしょうか？ 自分の自由を相手にプ

レゼントするからつながりが成り立つん

ですね。そして、愛し合う者たちの間

では、そうすることが嬉しい……。神は

人間との間にそういうつながりを持つこ

とを望まれたんですね。人間の自由とい

うのは、愛のつながりを望まれた神から

の愛のプレゼントで……。神は初めから、

人間をそのように大切に思っていてくだ

さるんだということなんです。

人の子は何もの？

これって驚きじゃないでしょうか？

詩編八篇の詩人は、天を仰いで神の

創造の偉大さ、その力の大きさに驚いて

いるんですけど……。でも、もつと驚き

なのは、人間という、この地上にはりつ

いて生きている小さな存在……。その中

でもさらに小さな一人に過ぎない「私」

という存在を、神が心に留めてくださ

るといふことだと感じているんですね。

いったい何者だからこんな小さな者を

顧みてくださるのか……。神の大きさと、

その大きな神が心に留めて下さる人間、

そして自分の小ささのギャップに驚いて

いるんですね。

そのギャップを橋渡しするのは、「神

に僅かに劣るものとして人を造り」とい

うことなんです。 「えっ」と思いませ

んか？ 人間が「神に僅かに劣る」んで

すと？ これって、人間が神だと考える

ことの次くらいに思ひ上がりなんじゃな

いでしょうか？ これまでの教会の教え

では、人間は神と絶対的に違つており、

神に似たところなんてすべてなくした

「罪人」だと言われてきたんでしょう？

確かに、「存在」とか「本質」とかい

う側面からみるとそうなる。較べるには、

神は大き過ぎ、人間は小さ過ぎるんです

ね。体重せいぜい五〇〜百キログラムの

人間と、ビッグバン宇宙の創造者なん

で、較べる方がおかしいんですね。で

も、「実存」という側面、つまり「在り

よう」とか「振る舞い方」ということ
から見ると、人間は神と瓜二つで……。

自由な人格の主体として、愛するという
在り方・振る舞い方ができる者として
造られている……。「僅かに劣る」とい

うのは、たしかに神のようには行かない
……。力において、強さにおいて、ま
た、ゆらぎのなさにおいて。人間は
弱さ、小ささを負っているんで、けっし

て思い上がってはならないんですけど。
でも、小さいからといってけっして卑下
したり、自分をないがしろにしたりして

はいけない……。神から与えられている
自由と尊厳という、この尊いものをおろ

まど

▽六月一八日(土)～一九日(日)
名古屋の中京大学を会場に「第
八回移住労働者と連帯する全国
フォーラム・東海2011」。地元
実行委員会の行き届いた準備で、盛り上
がった二日間。全国フォーラム未経験の
地元の方々が、六〇〇人を越える参加に
驚いておられたと聞き。地元のご努力の
たまものとはいえ、全国ネット二〇年の
積み上げの重みを実感。

▽第二日目は記念講演と震災救援報告。
特に、震災救援がピンポイントの救援物
資搬送から始まり、避難所でのフィリピ
ン被災女性たちとの出会いと彼女たち
の活躍の状況、移住労働者の仲間たちの
炊き出し参加……と、震災という苦しみ
の中で展開された多民族社会の現実のレ

そかにしてはいけないんですね。

その足もとに

何で、神はそこまでして人間をお造り
になったんでしょね。それは、人間が
神からプレゼントされた自由を使って、
神といっしょに働き、いっしょに苦勞し
ていっしょに喜ぶ、パートナーになるこ
とを望まれたからなんです。

神に似た尊厳が人間に与えられてい
るのは、

「御手によって造られたものをすべて
治めるように
その足もとに置かれました。」

ポルトに大いに励まされました。

▽七月一三日、NCC傘下委員会全体会。
海外の諸教会から、大規模な震災救援金
の申し出があるのに、それを被災地につ
なぐパイプが足りない実情を何とかした
いと。日頃から地域での活動に関わって
いない教会は、緊急時に動きがとれない
のが現実。いくつかの重要なプロジェクト
も提出されていることにやや安堵。し
かし、ほんとうは、原発事故被災者救済
の長期プロジェクトが教会から出てほし
かったところ。またひとつ、大きな課題。

▽七月一六～一七日、なか伝キャンプ。
二八人参加、子どもたちがいる風景が何
より楽しく。

○西日射す緑の溪に風立ちてさやぐ木
ぬれを渡り行くなり (渡辺英俊)

と言われているように、神といっしょ
に働いてこの世界を「治める」ためな
んですね。「治める」というのは、意
のままに支配して、搾り取ったり破壊
したりするということじゃない……。
「耕し、守るようになされた」(創世記
二章一五節)と言われているように、
愛をもって世話する、「ケア」の役なん
です。

人間は、自分たちに与えられた尊厳
と自由を、ずいぶんないがしろにしてき
たんじやないでしょうか？そしてそれ
といっしょに、自然世界に働きかける、
人間特有の能力を乱用してきたんじや
ないでしょうか？そのあげく、「原発
事故」という、自分たちと子孫の生存を
危なくするような災害を身に招いたんじ
やないでしょうか？

もう一度、出発点にもどってみたい
んです。神がわたしたち人間に譲り
渡してくださったものの大きさ、尊さ
を受け止め直すこと。そしてそれとい
っしょに神が人間に委ねてくださった、
世界へのケアという役割の大切さを受
け止め直すこと。神の期待にこたえて神
といっしょに働くことが、わたしたちの
喜びになるように生き方を立て直すこ
と。「原発大震災後」の今という時点で、
求められているのはそれなんです。

支援献金 (五月分)

支援献金 (六月分)

感謝してご報告します。

渡辺英俊著 八月新刊

「虹を追って」

——ある牧師の五十年——

今年三月で牧会満五十年を迎えた渡辺牧師
が、大阪教区二・一集会での講演録をも
とに、五十年の歩みを日本キリスト教団の
歴史と重ねて振り返ったもの

ラキネット出版刊

予価一〇〇〇円(送料)

お申し込みは、左記へ

振替 〇〇二〇一・四七三六九

なか伝道所

第8回 なか伝・公開講座

日時 九月一日(日) 午後六時半
場所 なか伝道所 参加費 500円

テーマ

『土地を私有しない』神学の試み

テキスト

渡辺英俊『旅人の時代に向かつて』

第2章 40ページ以下